平成26年度　矢掛町立川面小学校学校評価書

校長　　渡 辺 英 信　　印

本校のミッション
・確かな学力を培い豊かな心と健やかな体を備えた，たくましい児童を育てる「明るく元気のある学校づくり」を行う。 ・長く培われた伝統を踏まえ，川面地区住民の教育に対する熱意に応える「信頼される学校づくり」を行う。

学級数	7学級	児童（生徒・園児）数	97人
職員数	12人	家庭数	72戸
学校関係者評価委員	池尻　桂治　（川面公民館長）　野木　哲夫（民生児童委員）　片岡　史章　（PTA会長） 内田　葉子（PTA副会長）　増田　典子（公民館主事）　福本　昌之（川崎医療福祉大学教授）		
専門評価委員	福本　昌之（川崎医療福祉大学教授）		

A　成果をあげている　B　ほぼ成果をあげている　C　あまり成果をあげていない　D　成果をあげていない

	領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	考える子の育成	確かに学ぶ子どもを育てる。	日々，わかりやすい授業を展開し，それぞれの教科の基礎・基本の定着を図る。 児童一人ひとりの実態を把握し，特に，困り感のある児童に的確な支援を行う。	魅力ある授業づくり徹底事業の展開の中で，すべての学級において，算数科を中心とした授業研究を継続していく。 アセスメントシートを使って分析・考察をし，個に応じた支援を行う。	**○児童へのアンケート（算数）で「授業の内容がよくわかる」の回答が増えているか。** **○各教科の単元テストで，平均点が80点を超えたか。** **○アセスメントシートの結果を研究授業等の指導案に活用でき，それぞれの授業で生かすことができたか。**	*児童へのアンケート(5月，11月実施) 「授業の内容がよくわかる」が，学年差はあるものの全体的にはやや増えている。 *多くの学年多くの単元で，平均点80点を超えることができた。 *昨年度のアセスメントシートの結果を新担任が把握。(4年生は今年度，高学年用実施) 学級の特徴を学習活動案に明記し，視覚支援・個別支援・机間指導によって配慮している。	B
2		意欲的に学ぶ子どもを育てる。	児童が，主体的に学習する態度を育成するとともに，自分の考えと友だちの考えとの関わりにより，コミュニケーション能力の向上を図る。	めあてに対する自分の考えをもち，その考えを表現しようとする力を育成する。そして，考えを交流することで，考えを深めたり広げたりすることができるよう授業を工夫していく。	**○全員の児童が自分の考えをもち，ノートに書いたり，一日一回以上発表したりすることができたか。**	＊1日1回以上発表している児童　90% ＊自分の考えをもたせるための時間確保やノート指導をしているが，個人差・学年差があり，継続しての指導や授業の工夫が必要と思われる。	A
3		感性・想像力・言語力の豊かな子どもを育てる。	読書に親しむ児童の育成を目指す。	読書の楽しさが味わえるように，読書タイムやブックルの活用，低学年の読み聞かせ等により，本と触れ合う場を設定する。 全校での貸し出し数の目標を5,000冊に設定する。	**○設定した全校での貸し出し数(5,000冊)の目標に達することができたか。**	＊図書室の本の貸し出し冊数　1722冊(11月末) 　ブックルでの貸し出し冊数　　1965冊(11月末) この調子で読書を奨励していけば，5,000冊の目標が達成できそうである。 ＊学年相応の本を読んでいるかどうかは，課題がある。読書内容については個別に指導が必要である。	B
4	やさしい子の育成	自分や友だちを大切にするやさしい心を育てる。	いじめや仲間はずれのないお互いを認め合える学級集団づくり，異学年との仲間づくりをする。	アセスやQUを活用して，各学級の課題を明確にしながら，望ましい集団づくりの取組をする。 なかよし月間の設定や縦割り班活動を定期的に実施する。	**○学校が楽しいと答える児童が90%以上いるか。（昨年94%）**	＊学校が楽しい　児童94%　保護者96% ＊3・4年アセス　5・6年QU 　全学年教育相談(6月，10月実施) 自己肯定感や友達関係など気になる児童がいるので，今後も全校遊びや各学級のいじめをなくす取組をしていく必要がある。	B
5		ふるさとを愛する心を育てる。	地域人材や教材を活用した授業を行ったり，地域行事への参加を奨励したりして，ふるさとを愛する心を育てる。	地域人材・教材を活用した授業を年1回以上する。 全学年がホタルに関して学習する場を設定する。	**○各学年，年1回は，地域教材を使った授業や，地域の方に指導していただく授業を実施することができたか。** **○ホタルについての学習を意識することができているか。**	＊川面の良さを見つけた児童　95% 　特色がある教育保護者　　90% 総合的な学習や生活科では地域人材・教材の活用ができている。 ＊ホタルについての学習は，年間計画に沿って系統的に行っていかなくてはならない。	B
6		発達段階に応じた人権感覚を育てる。	いろいろな立場の人にやさしく接することができる児童を育成する。	児童が，障害者や高齢者の方などと交流できる授業を，各学年で年1回は，実施する。	**○双方向による交流学習（お互いに意見や感想が言える学習）を年1回以上実施することができたか。**	＊高齢者・障害者・幼稚園児との交流 1年子ども祭り・昔遊び(高齢者とのふれあい)　2年子ども祭り　3年フラワーパーク苗植え(授産施設の方と年2回)　4年　西備支援児童との交流学習・福祉体験　5年　手話学習・幼保園児との交流　6年道徳障害者理解予定	B
7	強い子の育成	進んで体を鍛えようとする子どもを育てる。	外遊びをしようとする児童を育成する。	体育科の指導(複数指導，複数学年での授業)を工夫する。 高学年を対象として，水泳と陸上の放課後練習を実施して，運動の楽しさを実感させ意欲をもたせる。また，業間時間にサーキット等の全校による運動を定期的に実施していく。	**○85%以上の児童が休み時間には外で遊んだか。（昨年74%）** **○水泳や陸上の練習へ多くの児童が意欲的に参加できたか。**	＊外で遊んでいる児童　86% 業間時間の全校遊びを工夫したり，縦割り班遊び，学級遊びを繰り返し行ったりして，多くの児童が外遊びをした。 ＊水泳・陸上の練習や大会に多くの児童が参加した。 ＊体育科を複数学年で指導したり，鉄棒・マット運動等の指導を工夫したりした。	A
8		基本的な生活習慣の定着を図る。	「矢掛町あ・は・は」運動，「早寝・早起き・朝ご飯」運動を充実させる。 学校の日常生活での生活習慣を身に付けさせる。	「校外でのあいさつ」や「家庭やトイレ等のはきものそろえ」を家庭と連携して指導・啓発する。 校内では，基本的生活習慣において模範となる児童(グループ・学級)を適宜(毎月)取り上げ，全校の場で称揚する。	**○85%以上の児童が「あいさつ・はきもの・はいの返事」ができたか。（昨年：あいさつ・・・児童97%・保護者91%，はきもの・・・児童85%・保護者61%）** **○多くの月で，校内表彰される児童（グループ・学級）が出たか。**	＊あいさつ　児童99%　保護者94% 　返事　　児童99%　保護者82% 　はきものそろえ　児童80%　保護者62% 児童のあいさつは，校内では意識できているが，家庭や地域では意識が低いようだ。はきものそろえは，下足箱の方はよいが，トイレのスリッパはまだまだである。 ＊校内表彰は，7月　6年生(あいさつ) 　　12月　登校班サンコーポ男子1班 　　(あいさつ)	C
9	開かれ・信頼される学校	積極的に情報交換を行い，開かれた学校づくりを推進する。	毎月地区の全戸に学校だよりを配布したり，，ホームページの更新をしたり，PTA行事や各種委員会を開いたりして，地域・家庭と連携を図る。	できるだけ多くの機会を捉えて，保護者や地域の方々とコミュニケーションを図る。得た情報等は，校内で共通理解を図り，改善の参考としたり，発信したりする。	**○家庭や地域との交流の機会を積極的に設定することができたか。また，日々の学校の様子や取組を　学校だよりやホームページ，学級通信等で機会を捉えて発信することができたか。**	＊ホームページは月1回のペースで更新。 学校だより・学級通信等で，児童の様子や取組，お知らせ等を発信することができた。 ＊地域行事・PTA行事等に参加し，親睦を深めた。	A
10		教員としての資質向上を目指すために様々な研修機会を設定する。	魅力ある授業づくり徹底事業により，全職員が授業力の向上を図る。	毎月1回の事業日に，公開授業を実施し，全員研修により，授業づくりのポイントを学習し，各自の実践へ生かしていく。	**○教職員へのアンケートで「わかりやすい授業にするために，指導方法の工夫や改善をした」の回答が増えているか。**	＊毎月1回の事業日に，公開授業全員実施。 「わかりやすい授業」に向けてICT機器の効果的な活用をしたり，小集団の話し合い活動を取り入れたり，ノート指導を細やかに行ったり，個に応じた指導に心掛けたりしている。	B

分析・改善方策

・それぞれの努力で学校全体が落ち着いており，子どもたちが穏やかな表情で学校生活を楽しむことができている。あいさつの意識も高まりつつあるが，より多くの体験や機会を通じて，人とかかわることの大切さを学んでいかせたい。
・基本となる授業の改善が具体的な取組の中で展開され，“わかりやすい授業”を着実に積み重ねることができつつある。子どもたち個々の能力を生かしながら，学級集団としての機能を高める工夫や取組を継続していきたい。
・個々の学力に応じた指導・支援へ向け，時間調整や人員の確保，学習内容の充実，家庭学習との連携など，継続性のある取組を引き続き模索していきたい。
・子どもたちの安全を守ることに最大の努力を図りながら，子どもたちの健康で強い身体づくりをめざし，全職員の共通理解のもと企画立案した活動を積極的に展開していきたい。
・中学校への進学や将来へ向けて，生きていく力の育成を全職員が意識したうえで，本校の特色を生かしながら，それぞれの発達段階を考慮した系統性のある指導・支援を継続していきたい。

学校関係者評価

○年度当初に設定した単年度目標を達成するため，計画内容に熱心に取り組み達成基準をほぼすべて満たすことができている。特に考える子の育成について，具体的取組が多くなされている様子がうかがえる。B・C評価の項目については，結果分析を活かして来年度の計画を進め，より効果的な学校評価を目指してもらいたい。
○「ふるさとを愛する心」を育てるには，地域の想いが大切だと考える。学校が系統的・計画的に実施している地域の人材・教材の有効活用に加えて地域行事もさらに工夫し，児童がふるさとに関心をもつことができるように連携を深めたい。
○「あはは運動」等基本的生活習慣については成果が今一歩となっている。児童と保護者との認識の違いも大きく，家庭・地域の後押しによりいろいろな機会をとらえて定着を図ってほしい。また，学校・家庭ともに児童にしっかり向き合い，信頼で結ばれた「楽しく安心できる学校」を今後も目指してもらいたい。
○設置者への要望として，教職員が児童と向き合いきめ細やかな指導をしたり授業づくりの工夫をしたりするために，ICT機器環境の充実は欠かせない。また，学校全体に落ち着き感があるのは，児童支援加配や特別支援教育支援員配置の効果が大きいと思う。支援を要する児童に個別に対応できる人員の継続配置・増員を望む。昨年度同様，緊急用携帯電話の設置を，安全・安心な学校づくりのためにぜひお願いしたい。

専 門 評 価 （ 本年度は なし ）			
評価項目	観 点	学校の現状（〇優れている点 △改善が望まれる点）	改善の方向性
1. 自己評価の状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
2. コミュニケーション力の向上	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
3. 不登校児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
4. 学習不振児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
5. 学校の組織運営	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
6. 学校と保護者・地域社会等との連携協力	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
7. 特別支援教育	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
8. 学校の総合的な状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		

来 年 度 の 重 点 ・ 方 針
〇徳・・・個々が育んでいるやさしい心をより深めるため，人とかかわる体験や学習を意欲的に取り入れていく。 〇知・・・個々の学力を着実に高めるため，日々の授業を充実し，個別のサポートを組織的に展開していく。 〇体・・・心に繋がる健康なからだをつくるため，さまざまな運動の場や機会を積極的に企画・実践していく。 〇人・・・上記の取組について，学校（教職員）だけでなく，地域をはじめ多くの方々の指導・支援をいただきながら，将来へ向けての生きる力を総合的に育成していく。